井ノ口小学校　学校だより

井ノ口の空

学校の教育目標
「自ら学び、共に考え、行動する子ども」
〇しっかり聞く子　〇はっきり話す子
〇じっくり考える子　〇進んで運動する子
〇力を合わせて活動する子

☆自分が光る　みんなで輝く☆　令和8年 10 月 30 日

10/25(日)　運動会開催！









児童会が決めた今年の運動会テーマは

みんなで協力　きずなが深まる
笑顔 100%の運動会



青空にさわやかな風が吹き、季節が秋へと移り変わっていった 10 月。運動会に向けて、練習に一生懸命に取り組む子どもたちの姿がまぶしい毎日でした。どの学年も、工夫を凝らし、練習を重ね、自分たちらしい種目づくりをしてきました。雨天延期によりご迷惑をおかけし、また、当日は小雨が降ってくる時間もありご心配をおかけしましたが、子どもたちのパワーで太陽の光も差し、無事に運動会を行うことができました。この運動会をとおして、少し大変だと感じても立ち向かいやりとげるすがすがしさを味わったり、みんなで楽しむよさを感じたりできたのではないかと思います。

全員が運動会の主役！お互いをたたえ合う応援団の団旗はピンク色



各クラス、そして代表委員会の話し合いを経て、「赤白での競技は行うけれど、得点にはこだわらず、お互いに応援し合うみんなの運動会にしよう」ということになりました。そこで応援団が掲げた団旗は、赤白を混ぜたピンク色に「友」「絆」の文字。この旗のもと、力を合わせ、全力を尽くす子どもたちの姿に、井ノ口小らしさと頼もしさを感じました。



１・２年生　パワーぜんかい☆ ちいさなかいじゅうたち



なかよし班種目　みんなで協力！！ ボールを運んで笑顔 100%



低・中・高学年それぞれ2学年が教え合い助け合って練習したダンスや表現運動。お互いに切磋琢磨し、それぞれの良さから学び、「もっと上手になりたい」「みんなでかっこよくやり遂げよう」という思いにつながりました。堂々とグラウンドに立つ一人一人の顔は、輝いていました。また、団体リレーなどの競技は、力を合わせてみんなで喜び合う素晴らしさを味わえるよう工夫して行いました。

いずれも、一生懸命に練習した成果を、子どもたち自身が感じられたのではないでしょうか。

全校なかよし班種目は、練習の時から本番まで、なかよし班での温かい雰囲気の中での熱い試合でした。

３・４年生　大漁 ～響け　どっこいしょ！～



５・６年生　記す ～それぞれの光、ひとつの軌跡～



委員会ごとに仕事を分担して、５・６年生が大活躍でした。開閉会式の進行、ラジオ体操、審判、用具、応援団、実況放送、なかよし班種目やふれあい種目の運営等、子どもたちが行いました。5，６年生のかっこよさが、１～４年生に届いていますようにと願っています。

そして、多くの保護者、地域の皆様の声援は、全員の大きな励みとなりました。あらためて感謝いたします。

学校保健委員会　「食べることは生きること ～おやつと給食から食生活を見直そう～」



10月5日（月）の3、4校時に学校保健委員会を実施しました。

学校保健委員会というのは、子どもたちが、これからもずっと健康で安全な生活を送ることができる力を身に付けるため、自分たちの健康のことを学んでいこうという会です。

健康と一言で言っても、身体や心、様々な面から考えられます。健康を保つためには、自分自身、家庭の方、学校、地域の方々が一緒になって取り組んでいくことが大切なのだと思います。今回は、ふだん何気なく食べているおやつについて、考えました。





はじめに、保健委員会の子どもたちの発表があり、司会進行も保健委員が務めてくれました。

今回は、カルビー・フードコミュニケーションから講師をお迎えし、おやつには食事だけでは補えない栄養を補給する役割や心を明るくしてくれる役割があることを学びました。そして、1日に食べる適量の35グラム（200キロカロリー）とは、いったいどのくらいなのか、ポテトチップスを実際に量って試してみるという、楽しく学ぶコーナーもありました。子どもたちは、自分の手のひらに乗せて体感。「初めて知った。」と驚く声も多かったです。栄養成分表示の見方にも興味津々。あらためて「栄養」について考えるよい機会となった様子でした。



また、中井町学校給食センターの学校栄養技師である耳塚先生からも、栄養の観点から給食について話していただき、食事とおやつを関わらせながら考えることができました。

ご参加いただいた保護者の皆様、ありがとうございました。

10月13日より、後期が始まりました

後期始業式の校長の話では、**「みんなちがって、みんないい」について話しました。**

この言葉は、金子みすゞさんという詩人の「わたしと小鳥とすずと」という詩の中に出てきます。

ところで、この詩の題名は「『わたし』と小鳥とすずと」で、「わたし」が一番最初に来ています。でも、詩の最後では、順番が変わっているのを知っていますか？ 最後は、**「すずと、小鳥と、それからわたし」**と書かれているのです。

「わたし」が一番最後になっているのは、なぜだと思いますか？

金子みすゞさんは、こんな思いを込めてこの詩を書いたそうです。**「みんながいるから、わたしがいる。みんなも、わたしも、どちらも同じくらい大切なんだよ」**金子さんにとっては、すずも、小鳥も、そして周りのお友達も、自分と同じくらいとても大切な存在でした。「みんなちがって、みんないい」という言葉には、そんな互いを大切にするあたたかい気持ちが込められているのです。

自分と友達は、違ってあたりまえです。好きなことも、得意なことも、みんな違います。**お互いの「ちがい」を「いいね！」と認め合えた**とき、この言葉の本当の素晴らしさが分かるはずです。自分とは違う友達と力を合わせるからこそ、一人では出せない、もっと大きなすごい力が出せるのです。

自分も、そして周りのみんなも同じように大切にして、みんなで輝く井ノ口小学校を、一緒につくっていけるよう努めてまいります。引き続きご理解とご協力をお願いいたします。